

□主な内容

【第 10 回地域の交通環境対策推進者養成研修会(松山市)参加者募集中!】

9月28日(水)~30日(金)の3日間、EST交通環境大賞を受賞した愛媛県松山市で人材養成研修会を開催します。8月31日(水)まで追加申込を受付中です!

<http://www.estfukyu.jp/training2021.html>

【ビッグデータを活用した実証実験事業の公募を行います】

国土交通省は、携帯電話の位置情報データ(ビッグデータ)を活用し、交通課題の解決を目指す事業の公募を開始しました。公募期間は9月22日までです。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo23_hh_000140.html

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 193 回)

●いまこそ「限界なき学習」の実践を!

【愛媛大学 社会共創学部 教授 松村 暢彦】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信!」(第 193 回)

●ICT教材と副読本を活用したモビリティ・マネジメントの取組み

【沖縄県 浦添市 都市建設部 都市計画課 新城 裕也】

3. ニュース／トピックス

●ビッグデータを活用した実証実験事業の公募を行います【国土交通省】

●デジタル社会に対応した新しい都市交通調査体系の実現に向けて ~新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会 中間とりまとめ~【国土交通省】

●鉄道分野におけるカーボンニュートラル加速化検討会 中間とりまとめの公表について ~鉄道の特性を踏まえたカーボンニュートラルの実現に向けて~【国土交通省】

●「鉄道脱炭素官民連携プラットフォーム」の会員を募集! ~みんなで一緒に鉄道脱炭素のミライを考えませんか~【国土交通省】

●無人フォークリフトを活用した物流DXの取組や異業種ラウンド輸送も支援 ~令和4年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」の交付決定~【国土交通省】

- 車両動態管理システム等の導入補助を開始します！ ～令和4年度トラック輸送の省エネ化推進事業の公募を開始します ～【国土交通省】
- バイオ燃料を使用した実証試験を実施します ～船舶の更なる脱炭素化の実現・バイオ燃料の利用促進に向けて～【国土交通省】
- 海の次世代モビリティを用いた実証実験5件を選定しました！ ～沿岸・離島地域の課題解決のため、海の次世代モビリティの新たな利活用法の検証開始～【国土交通省】
- 日本インフラの体力診断 Vol.2(地域公共交通・都市鉄道・下水道)を公表【土木学会】
- 熊本県の「共同経営推進室」が国土交通大臣表彰を受賞しました ～「令和4年地域公共交通優良団体大臣表彰」～【九州運輸局】
- 2022「ノルデ運動」参加者募集中!!【鳥取市】
- 松阪駅～賢島駅間のサイクルトレインを本格実施します！ ～「鉄道」×「自転車」を融合した新たなおでかけスタイル～【松阪市・松阪市観光協会、明和町・明和観光商社、伊勢市・伊勢市観光協会、鳥羽市・鳥羽市観光協会、鳥羽商工会議所、志摩市・志摩市観光協会、近畿日本鉄道】
- 石川県小松市における2大交通拠点をつなぐ自動運転バスの導入に向けた連携協定を締結【小松市、BOLDLY、ティアフォー、アイサンテクノロジー、損害ジャパン】
- 八尾市・藤井寺市おでかけ応援事業 ～バスにのってこ！キャンペーン～【八尾市・藤井寺市】
- 阿久根市と日産自動車、電気自動車を活用し脱炭素化と防災力強化に向けて連携【阿久根市、日産自動車、鹿児島日産自動車】
- 長崎県でMaaSアプリ「my route」のサービスを開始します！ ～官民一体となって長崎県の交通課題解決に取り組みます～【長崎県 MaaS 実行委員会】
- スクールバスの空き時間を活用したデマンドバスの併用実証実験を実施 ～大新東受託車両で2022年8月1日から君津市で運行～【SHIDAX】
- 長年駐車場だけだった場所へ切り込む新たなまちづくり。栃木市で丸々2ヶ月の中期的拠点設置実験「corner」が開催。街歩きと地域交流がテーマ。【YUM innovation 合同会社】
- 自治体・企業向けにEVを活用した「idemitsu CN(カーボンニュートラル)支援サービス」の提供を開始します ～EV×エネルギーマネジメントシステムで地域の脱炭素化に貢献～【出光興産、ソーラーフロンティア】
- 日置電機株式会社と株式会社 Yanekara は V2V 充電技術を活用したオフグリッドEV充電システムの実証を開始します ～営業車両・通勤車両の脱炭素化を見据え、EVの蓄電能力を最大限活用した新しいオフグリッドシステムの実現可能性を検証～【日置電機、Yanekara】
- 大阪スーパーシティの実現に向け、官民学連携で「空飛ぶクルマ」の大阪ベイエリア航路実現性の調査を開始【SkyDrive、朝日航洋、大阪公立大学、大林組、関西電力、近鉄HD、グローピング、大日本印刷、東京海上日動、日本工営、三菱電機】

- 国内初、量産型国産小型商用 BEV トラック 500 台を導入—環境負荷軽減と集配業務における効率化を実現—【ヤマト運輸】
- 電気小型トラック「eCanter」による EV ごみ収集車、国内 2 台目を納車【MFTBC】
- 船舶用バイオ燃料のデータ収集・分析プロジェクトに参画【日本郵船、アストモス】
- 日産自動車、EV や持続可能な技術への資金調達を可能とするサステナブル・ファイナンス・フレームワークを策定【日産自動車】
- ベルギー・ブリュッセルで「カーフリー月間」の実証実験 住民 6,000 人が参加【ELEMENIST】
- 無人自動運転タクシー、重慶市・武漢市で運行開始【Baidu】
- インドネシア・バリ島で電気小型トラック「eCanter」の実証実験を実施【MFTBC、KTB 社】

4. イベント情報

- 第 10 回地域の交通環境対策推進者養成研修会（松山）～サステナブルな ECO 社会の構築を目指した地方からの挑戦～【2022/9/28-30】
- 絵日記で伝えよう！列車・バスの思い出【2022/7/16-8/31】
- 京成電鉄 駅遺産巡りの旅【2022/8/27、9/17】
- 「地域モビリティの再構築」シリーズ・セミナー（第 4 回最終回）総括シンポジウム:「再構築の総力戦は成るか？」【2022/9/2】
- 最後の 1000 形未更新車 2 編成を貸切運行で満喫！【2022/9/3】
- 小田急の電車撮影会 最後の 1000 形未更新車 2 編成【2022/9/4】
- 共生社会バリアフリーシンポジウム【2022/9/4】
- 高齢社会と未来の交通【2022/9/7】
- 北海道のバリアフリーと交通における新しい方向性【2022/9/8】
- 団体専用列車「楽」で行く！名張車庫車窓見学ツアー【2022/9/23】
- 空（そら）体験イベントシリーズ【2022/10/22-30】

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 193 回)

●いまこそ「限界なき学習」の実践を！

【愛媛大学 社会共創学部 教授 松村 暢彦】

「限界なき学習」という書籍をご存知でしょうか。この書籍は、ローマ・クラブ第6レポートとして1980年に発行されました。ローマ・クラブというと「成長の限界」を思い浮かべる人も多いと思います。「成長の限界」は人口増加や環境汚染などの現在の傾向が続けば、100年以内に地球上の成長は限界に達することを世界の叡智を集めて具体的な数値で示しました。それに比べて「限界なき学習」はそれほど有名ではありません。しかしこれが書かれた40年前よりも今の方がこの本の内容のニーズが高まっていると思います。

この書籍の基本概念として「ヒューマン・ギャップ」が用いられます。これは、社会の「進化」と呼ばれる変化に対して人間の理解が追い付いていないことを指していて、このギャップが更に拡大することへの懸念を表明しています。このヒューマン・ギャップを埋めるために個々の人間が持つ潜在的な能力を学習によって高めていこうというのが基本的な戦略で、それにはまず、「先見: Anticipation」と「参加: Participation」を中心とした学習方法に変革していく必要があることを説いています。

MaaS など新しい社会システムが交通の分野でも導入され、社会の「進化」がとまりません。こうした新しいテクノロジーにわれわれが使われるのではなく、テクノロジーを使う側になり続けるためには、「未来を見通す目」を養い、「主体的に課題に取り組む」資質や態度を学習によって身に付けていくことが必要になります。小中高等学校において総合的な学習の時間が導入され、交通をテーマとした主体的・対話的で深い学びの試行錯誤が続いています。こうした学びは、学校教育だけで終わらせるのではなく、生涯教育の観点から社会に組み込んでいく必要があります。単に知識を得るためだけの学びではなく、時間をかけて主体的に他者とともに課題に取り組む参加機会を確保していくことがこれからより一層求められます。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 193 回)

●ICT 教材と副読本を活用したモビリティ・マネジメントの取組み

【沖縄県 浦添市 都市建設部 都市計画課 新城 裕也】

浦添市ではモビリティ・マネジメント教育(以下、MM)の継続的实施を目標に市内小学校への授業カリキュラム導入へ向けた取組みを進めています。

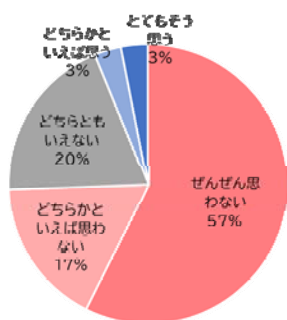
その取組みの一環として、令和元年度より MM に関する ICT 教材の制作を行っており、交通と環境の関係について学ぶことができる座学用教材と渋滞の疑似体験が可能な「交通すごろく」をそれぞれ ICT 教材として制作しています。

これまで、研究校として2校で授業を実施してきましたが、授業実施前後のアンケート調査による児童の意識変化をみると、授業実施後では公共交通利用意欲や環境に配慮した行動意欲が向上するといった結果がでており、継続して MM に取り組むことで交通や環境に配慮できる人材育成に繋がると考えています。

その一方で授業実施前後における通学時の送迎交通についての行動変化は見られなかったため、児童の行動変容を促すことが今後の課題となっています。

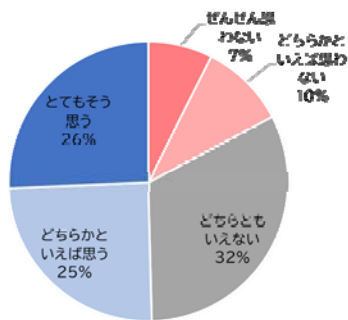
こちらについては、アンケート調査より送迎有無は児童の意志によるものではなく親の意志が大きく反映されていることが確認されたため、今後は授業参観日での MM に関する授業の実施や児童の意識変化を示すアンケート結果などを保護者向けに情報発信することで保護者も MM に繋げることを検討しています。

問:できるだけバスを利用しようと思うか?

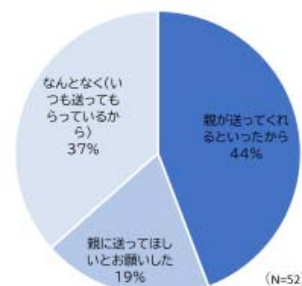


事前(N=129)

問:車通学をしたのはなぜですか?



事前(N=121)



(N=52)

図 1 バス利用意欲の意識変化

図 2 車通学の理由

その他、交通すごろくを ICT 化したことにより少ない人員で交通すごろくを実施することが可能となり、授業以外でも体験会等を開催することが容易となりました。

実際に市内大型商業施設で開催された子育てイベントでは会場内に交通すごろくブースを設け、イベントを訪れた家族などに親子で体験・学習する機会を設けることができました。

今後は授業やイベント等で MM の浸透を図りながら、中学校、高校でも MM が実施される体制づくりに取組んでいきたいと思います。



図 3 イベントでの交通すごろく体験会の様子



図 4 交通すごろく画面

3. ニュース／トピックス

●ビッグデータを活用した実証実験事業の公募を行います【国土交通省】

国土交通省は、携帯電話の位置情報データ(ビッグデータ)を活用し、交通課題の解決を目指す事業の公募を開始しました。公募期間は9月22日までです。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo23_hh_000140.html

●デジタル社会に対応した新しい都市交通調査体系の実現に向けて ～新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会 中間とりまとめ～【国土交通省】

国土交通省都市局は、2021年11月に「新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会」を設置し、近年の社会状況等の変化を踏まえた今後の都市交通調査体系のあり方に関して議論を実施してきました。

デジタル社会に対応した新しい都市交通調査体系の構築に向けた今後の方向性を示した中間とりまとめを行い、8月5日に内容を公表しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi07_hh_000200.html

●鉄道分野におけるカーボンニュートラル加速化検討会 中間とりまとめの公表について ～鉄道の特性を踏まえたカーボンニュートラルの実現に向けて～【国土交通省】

国土交通省は、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に向け、鉄道分野からのCO₂排出削減のための取組を進めるとともに、鉄道の特性を踏まえた再生可能エネルギーの活用をこれまで以上に加速させ、また代替燃料の可能性を模索するため、2022年3月に「鉄道分野におけるカーボンニュートラル加速化検討会」を立ち上げ、検討を実施してきました。

中間とりまとめを行い、8月16日に内容を公表しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo01_hh_000177.html

●「鉄道脱炭素官民連携プラットフォーム」の会員を募集！ ～みんなで一緒に鉄道脱炭素のミライを考えませんか～【国土交通省】

国土交通省は、鉄道部門における「2050年カーボンニュートラル」「脱炭素社会の実現」に向けて、鉄道関係者と民間企業等がそれぞれの情報を共有、協力体制を構築するため、鉄道分野・鉄道関連分野に関する「鉄道脱炭素官民連携プラットフォーム」を設立することとし、公募を開始しました。公募期間は8月30日までです。

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001498026.pdf>

●無人フォークリフトを活用した物流DXの取組や異業種ラウンド輸送も支援 ～令和4年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」の交付決定～【国土交通省】

国土交通省は、令和 4 年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」の応募案件について、計画策定経費補助 6 件、運行経費補助 12 件の交付決定を行いました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000626.html

●車両動態管理システム等の導入補助を開始します！ ～令和4年度トラック輸送の省エネ化推進事業の公募を開始します ～【国土交通省】

トラック事業者と荷主が連携して物流全体の効率化を図ることで、トラック輸送の省エネ化を推進するため、国土交通省は資源エネルギー庁と連携し、トラック事業者に対して、車両動態管理システム等の導入を支援します。2 次公募の申請を 9 月 16 日から 9 月 26 日までの間で受け付けます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha04_hh_000256.html

●バイオ燃料を使用した実証試験を実施します ～船舶の更なる脱炭素化の実現・バイオ燃料の利用促進に向けて～【国土交通省】

国土交通省は、船舶の更なる脱炭素化の実現に向けた取組の一つとして、バイオ燃料を使用した実船試験を実施し、その結果から得られる技術的留意点などを現在策定中の「船舶によるバイオ燃料取り扱いに関するガイドライン」に反映します。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji07_hh_000244.html

●海の次世代モビリティを用いた実証実験5件を選定しました！ ～沿岸・離島地域の課題解決のため、海の次世代モビリティの新たな利活用法の検証開始～【国土交通省】

国土交通省では、海の次世代モビリティの沿岸・離島地域における新たな利活用を推進する「令和 4 年度海の次世代モビリティの利活用に関する実証事業」について、5 件の実証実験を選定しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo11_hh_000064.html

●日本インフラの体力診断 Vol.2(地域公共交通・都市鉄道・下水道)を公表【土木学会】

土木学会では、「インフラ体力診断小委員会(委員長:家田仁)」を設置し、「日本のインフラ体力を分析・診断し、国民に示す」議論を重ね、2021 年には、第 1 弾として主要な公共インフラである高速道路、治水施設、国際コンテナ港湾を対象とした「インフラ体力診断書 Vol.1」を公表した。

今回の第 2 弾の診断書は、下水道、地域公共交通、都市鉄道の各インフラ関連の制度・整備の推移、国際比較の観点から質・量双方からの総合アセスメントを取りまとめたものである。本診断書 Vol.2 もコロナ禍での行動に制約がある中、各 WG が国内外のデータの収集に奔走し、熱心な議論した結晶である。

特に、地域公共交通については、未だ収まらない COVID-19 禍により直接的に影響を受け続けている分野であることから、我が国の同分野における政策、制度への反映を期待するものである。

<https://committees.jsce.or.jp/kikaku/node/127>

●熊本県の「共同経営推進室」が国土交通大臣表彰を受賞しました ～「令和 4 年地域公共交通優良団体大臣表彰」～【九州運輸局】

地域公共交通に関する取組みに顕著な功績があったとして、熊本県のバス事業者 5 社・熊本県・熊本市で組織する「共同経営推進室」が、2022 年 7 月 22 日、国土交通大臣表彰を受賞しました。

今回の受賞は独占禁止法特例法に基づく共同経営の全国初の認可を受け、重複するバス路線の移譲や協調運行による需給バランスの調整及び待ち時間の平準化を行い、利便性の向上を実現するなど、積極的な地域公共交通の確保・維持への取組が評価されたものです。

<https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/content/000270734.pdf>

●2022「ノルデ運動」参加者募集中!!【鳥取市】

路線バスなどの利用を促進し、公共交通を守っていくとともに CO2 の削減による地球温暖化防止に貢献するため、ノルデ運動(ノーマイカー通勤)に麒麟のまち圏域で取り組みます。

<https://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1654229750633/index.html>

●松阪駅～賢島駅間のサイクルトレインを本格実施します！ ～「鉄道」×「自転車」を融合した新たなおでかけスタイル～【松阪市・松阪市観光協会、明和町・明和観光商社、伊勢市・伊勢市観光協会、鳥羽市・鳥羽市観光協会、鳥羽商工会議所、志摩市・志摩市観光協会、近畿日本鉄道】

近畿日本鉄道株式会社では、2022 年 4 月に山田線・鳥羽線・志摩線(松阪駅～賢島駅間 57.6km)にて期間限定で実施したサイクルトレインを、2022 年 9 月 3 日から多客期を除き通年で実施します。自転車をそのまま車内に持ちこみ、降車後すぐに自転車で移動できるスタイルはそのままに、平日は 五十鈴川駅～賢島駅間の上下計 21 本で、土・日・祝日は松阪駅～賢島駅間の上下計 44 本で実施します。

https://www.kintetsu.co.jp/all_news/news_info/cycletrain_shima.pdf

●石川県小松市における 2 大交通拠点をつなぐ自動運転バスの導入に向けた連携協定を締結【小松市、BOLDLY、ティアフォー、アイサンテクノロジー、損害ジャパン】

小松市、BOLDLY 株式会社、株式会社ティアフォー、アイサンテクノロジー株式会社及び損害保険ジャパン株式会社の 5 者は、2024 年に予定される北陸新幹線小松駅開業に合

わせ、JR 小松駅・小松空港間のさらなるアクセス向上を図るため、自動運転バスの定常運行の社会実装を軸とした連携協定を、2022 年 8 月 3 日に締結しました。

https://www.sompo-japan.co.jp/-/media/SJNK/files/topics/2022/20220803_2.pdf

●八尾市・藤井寺市おでかけ応援事業 ～バスにのってこ！キャンペーン～【八尾市・藤井寺市】

八尾市、藤井寺市では、市民などが路線バス等を利用し外出する際、補助金を交付し、運賃の割引を行うことにより、市民の外出を応援することを目的とした「バスにのってこ！キャンペーン」を2022年9月1日～2023年2月28日まで実施します。

<https://www.city.yao.osaka.jp/0000064329.html>

●阿久根市と日産自動車、電気自動車を活用し脱炭素化と防災力強化に向けて連携【阿久根市、日産自動車、鹿児島日産自動車】

阿久根市と、日産自動車株式会社、鹿児島日産自動車株式会社の3者は、7月29日、EVを活用した「脱炭素化及び強靱化に関する連携協定」を締結しました。

本協定は、「走る蓄電池」となるEVの普及や脱炭素化の推進と同時に、阿久根市で災害による停電が発生した際、日産の販売会社から貸与する「日産リーフ」等のEVを電力源とした電力供給体制の構築を目的とした協定で、ゼロ・エミッション社会の実現を目指す日産の『ブルー・スイッチ』活動としては185件目の取組となります。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-12e3a191a6f1b9e2a726b08dc000ec4d-220729-01-j>

●長崎県で MaaS アプリ「my route」のサービスを開始します！ ～官民一体となって長崎県の交通課題解決に取り組みます～【長崎県 MaaS 実行委員会】

2020年7月より長崎県が主催する「長崎県 MaaS 導入推進協議会」において、長崎県を取り巻く交通の課題(少子高齢化・人口減によるご利用者の減少、西九州新幹線開業・IR 誘致に向けた取組の必要性)解決等に向けた取組の一つとして、長崎県での MaaS 導入に向けた課題や方向性等について協議・検討を行い、2021年5月に「長崎県 MaaS 導入指針(以下、指針)」が策定されました。

この指針に基づき、2022年4月27日に、長崎県内の主な交通事業者や観光関係事業者、関係省庁・団体等を委員・アドバイザーとして構成した「長崎県 MaaS 実行委員会」が発足し、長崎県における具体的な MaaS の実施内容の検討をすすめてきました。2022年8月2日より、トヨタファイナンシャルサービス株式会社が提供するマルチモーダルモビリティサービス「my route」を活用した長崎県内での MaaS のサービスを開始することになりました。

https://www.nishitetsu.co.jp/release/2022/22_040.pdf

●スクールバスの空き時間を活用したデマンドバスの併用実証実験を実施 ～大新東受託車両で2022年8月1日から君津市で運行～【SHIDAX】

総合サービス企業シダックスグループで、全国の民間企業の役員車、および自治体の公用車、貸切バス等の車両運行を行う大新東株式会社は、2022年8月1日(月)から2023年3月31日(金)までの期間限定で、千葉県君津市小糸(こいと)地区において、スクールバスの日中の空き時間を市民の皆様の移動手段の一助となる予約型乗合バス(として活用する、併用実証実験を開始いたします。

<https://www.shidax.co.jp/corporate/press-release/2022/15394/>

●長年駐車場だけだった場所へ切り込む新たなまちづくり。栃木市で丸々2ヶ月の中期的拠点設置実験「corner」が開催。街歩きと地域交流がテーマ。【YUM innovation 合同会社】

地方創生×エンターテインメントをコンセプトに様々な事業に取り組む YUM innovation 合同会社は、栃木県栃木市の中心市街地エリアにおいて、官民連携により持続可能なまちづくりを推進し様々な実証実験を行うエリアプラットフォーム「ウズマクリエイティブ」が拠点開発を目指した社会実験のひとつとして、2022年9月2日(金)～10月23日(日)に栃木警察署跡地(現在駐車場)の一角をあらゆるニーズが複合的に利用できるマーケット空間「corner」として展開いたします。

<https://www.value-press.com/pressrelease/301478>

●自治体・企業向けにEVを活用した「idemitsu CN(カーボンニュートラル)支援サービス」の提供を開始します ～EV×エネルギーマネジメントシステムで地域の脱炭素化に貢献～【出光興産、ソーラーフロンティア】

出光興産株式会社と、出光興産の100%子会社であるソーラーフロンティア株式会社は、エネルギーマネジメントシステムを活用し、公用車や営業車の電動化を検討している自治体・企業向けに、EV・自家消費型太陽光発電システム・充放電設備・EMS・車両予約システムの導入をワンストップで提案・提供する「idemitsu CN 支援サービス」の提供を8月5日より開始しました。

<https://www.idemitsu.com/jp/news/2022/220804.html>

●日置電機株式会社と株式会社 Yanekara は V2V 充電技術を活用したオフグリッド EV 充電システムの実証を開始します ～営業車両・通勤車両の脱炭素化を見据え、EV の蓄電能力を最大限活用した新しいオフグリッドシステムの実現可能性を検証～【日置電機、Yanekara】

次世代型 EV 充放電プラットフォームを開発する株式会社 Yanekara は、EV を蓄電池として活用したオフグリッド EV 充電システムを構築し、日置電機株式会社が新たに導入する社用車 EV を太陽光発電で充電する実証を、上田市の HIOKI 本社で開始しました。

<https://www.hioki.co.jp/jp/information/detail/?id=2641>

●大阪スーパーシティの実現に向け、官民学連携で「空飛ぶクルマ」の大阪ベイエリア航路実現性の調査を開始【SkyDrive、朝日航洋、大阪公立大学、大林組、関西電力、近鉄 HD、グローピング、大日本印刷、東京海上日動、日本工営、三菱電機】

「空飛ぶクルマ」および「物流ドローン」を開発する株式会社 SkyDrive は、2025 年の大阪・関西万博開催を見据えた日本初の「空飛ぶクルマ」の社会実装に向けて、朝日航洋株式会社、大阪公立大学、株式会社大林組、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、グローピング株式会社(代表企業)、大日本印刷株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、日本工営株式会社、三菱電機株式会社を実施主体とし、大阪府、大阪市の協力のもと、大阪ベイエリアにおける離発着ポートや飛行経路の実現性を検証します。なお、本事業は内閣府の「先端的サービスの開発・構築等に関する調査事業」に採択されています。

<https://skydrive2020.com/archives/10007>

●国内初、量産型国産小型商用 BEV トラック 500 台を導入—環境負荷軽減と集配業務における効率化を実現—【ヤマト運輸】

ヤマト運輸株式会社は、日野自動車株式会社が開発した超低床・ウォークスルーの国産小型商用 BEV トラック「日野デュトロ Z EV」を、2022 年 8 月 10 日から首都圏を中心に順次 500 台導入しました。量産型の国産小型商用 BEV トラックの導入は国内で初めてとなります。

https://www.yamato-hd.co.jp/news/2022/newsrelease_20220729_1.html

●電気小型トラック「eCanter」による EV ごみ収集車、国内 2 台目を納車【MFTBC】

三菱ふそうトラック・バス株式会社は、電気小型トラック「eCanter」による EV ごみ収集車 1 台を有限会社古川新興に納車しました。「eCanter」による EV ごみ収集車は国内 2 台目、民間企業では初めての納車です。

「eCanter」は走行時に CO₂ を含む排出ガスを一切出さないため、廃棄物運搬のカーボンニュートラル化に貢献します。「eCanter」は走行中のカーボンニュートラルを達成するだけでなく、従来のディーゼル車よりも騒音、振動とも低いという特徴があります。そのため、早朝から稼働することの多いごみ収集車という用途において、「eCanter」は住民に配慮した廃棄物収集を可能にし、運転手の疲労軽減にも貢献します。

<https://www.mitsubishi-fuso.com/ja/news/2022/07/28/電気小型トラック「ecanter」による ev ごみ収集車、国内 2/>

●船舶用バイオ燃料のデータ収集・分析プロジェクトに参画【日本郵船、アストモス】

日本郵船株式会社とアストモスエネルギー株式会社は、海事産業の脱炭素化を推進することを目的とした NPO 法人 Global Centre for Maritime Decarbonisation が設立した船舶用バイオ燃料実証プロジェクトに参画しました。

本プロジェクトは、透明性のある適切なバイオ燃料のサプライチェーンを構築することによって船舶用バイオ燃料の国際的な基準を形成し、海事産業がライフサイクルの観点から正しく GHG 排出量を削減できるようになることを目指します。

https://www.nyk.com/news/2022/20220802_01.html

●日産自動車、EV や持続可能な技術への資金調達を可能とするサステナブル・ファイナンス・フレームワークを策定【日産自動車】

日産自動車株式会社は、次世代の電動車やバッテリー、環境技術、新しいモビリティ・サービスなどへの資金調達を可能とする「日産自動車・販売金融子会社 サステナブル・ファイナンス・フレームワーク」を策定したと発表しました。

日産は本フレームワークを活用して、サステナビリティを推進するために必要な資金を調達し、よりクリーン、安全、インクルーシブな世界の実現に向けた取組を強化していきます。本フレームワークで調達した資金は、再生可能エネルギーの利用、クリーンな生産システム、EV 用の充電インフラ、バッテリーの二次利用、自動運転技術などの幅広いプロジェクトで活用される予定で、日産は本フレームワークを通じて資金調達を受ける事業分野や各プロジェクトの適格基準も公表しました。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/release-8886a854e4051de47ab31b5f93197611-220802-00-j>

●ベルギー・ブリュッセルで「カーフリー月間」の実証実験 住民 6,000 人が参加【ELEMENIST】

ベルギーのブリュッセルで 6,000 人の住民が「カーフリー月間」の実証実験に参加した。ブリュッセル首都圏政府は、エネルギー価格の高騰を受けて石油由来の燃料に依存する体制から脱却するべく、カーフリーデーの拡大を検討しているという。

<https://elemenist.com/article/2160>

●無人自動運転タクシー、重慶市・武漢市で運行開始【Baidu】

中国の検索エンジン最大手の百度(Baidu)は 8 月 8 日、重慶市と武漢市の両政府から無人運転モデル運営資格を取得し、両市において中国内初となる完全無人運転タクシーのサービスを開始すると発表しました。重慶市では永川区の特定エリア(30 平方キロ)、武漢市では経済技術開発区の特定エリア(13 平方キロ)において、乗務員やサポートスタッフなしの無人運転タクシーサービスを提供します。

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/08/3a11b8a3547f517f.html>

●インドネシア・バリ島で電気小型トラック「eCanter」の実証実験を実施【MFTBC、KTB 社】

三菱ふそうトラック・バス株式会社のインドネシアの正規代理店である PT Krama Yudha Tiga Berlian Motors (KTB 社)が、2022 年 8 月よりインドネシア・バリ島において電気小型トラック「eCanter」の実証実験を行います。FUSO ブランド最大の海外市場であるインドネシアでは、今回が初めての「eCanter」の実証実験となります。

今回の実証実験では、「eCanter」はバリ島のデンパサール地区で、工場の原材料の配送や郵便物の配達に使用される予定です。またMFTBCとKTB社は、この「eCanter」の実証実験を通じて、温室効果ガス排出削減を目指すインドネシアの政策をサポートします。

<https://www.mitsubishi-fuso.com/ja/news/2022/07/28/インドネシア・バリ島で電気小型トラック「ecanter」/>

4. イベント情報

- 第10回地域の交通環境対策推進者養成研修会 ～持続可能なECO社会の構築を目指した地方からの挑戦～

日時:2022年9月28日(水)～9月30日(金)

場所:TKP 松山市駅前カンファレンスセンター 5階(ホール5A)

主催:EST 普及推進委員会、エコモ財団、国土交通省四国運輸局

<http://www.estfukyu.jp/training2021.html>

- 絵日記で伝えよう！列車・バスの思い出

日時:2022年7月16日(土)～8月31日(水)

応募先:〒680-8688 鳥取市富安2丁目137番地

新日本海新聞社 企画ソリューション課「絵日記」係

主催:みんなが乗りたくなる公共交通利用促進協議会

<https://www.pref.tottori.lg.jp/306469.htm>

- 京成電鉄 駅遺産巡りの旅

日時:2022年8月27日(土)、9月17日(土)

場所:京成上野駅出発

主催:京成トラベルサービス(株)、京成電鉄(株)

<https://www.keisei.co.jp/cms/files/keisei/MASTER/0110/WL5BGwb4.pdf>

- 「地域モビリティの再構築」シリーズ・セミナー(第4回最終回)総括シンポジウム:「再構築の総力戦は成るか？」

日時:2022年9月2日(金)13:00～17:00

場所:オンライン開催

主催:(一財)地域公共交通総合研究所

<https://chikoken.org/symposium/ol4form/>

- 最後の1000形未更新車2編成を貸切運行で満喫！

日時:2022年9月3日(土)9:15～14:45頃

場所:小田急線海老名駅

主催:小田急電鉄(株)

https://www.odakyu-travel.co.jp/special/oer/charter_1000.html?release

- 共生社会バリアフリーシンポジウム

日時:2022年9月4日(日)13:00~16:45

場所:シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢

主催:共生社会ホストタウン連絡協議会

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001494345.pdf>

●高齢社会と未来の交通

日時:2022年9月7日(水)13:00~17:00

場所:北星学園大学

主催:日本福祉のまちづくり学会北海道支部／日本福祉のまちづくり学会事業委員会、日本福祉のまちづくり学会地域福祉のモビリティデザイン特別研究委員会、土木計画学研究委員会研究小委員会「新しいモビリティサービスやモビリティツールの展開を前提とした交通計画論の包括的研究小委員会」、エコモ財団／北星学園大学／中央大学研究開発機構、(一社)北海道開発技術センター

http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/220907_seminar.pdf

●北海道のバリアフリーと交通における新しい方向性

日時:2022年9月8日(木)9:30~16:40

場所:北星学園大学(オンライン併用)

主催:土木計画学研究委員会 研究小委員会「新しいモビリティサービスやモビリティツールの展開を前提とした交通計画論の包括的研究小委員会」、北星学園大学、中央大学研究開発機構、(一社)北海道開発技術センター、(一社)日本福祉のまちづくり学会 事業委員会・北海道支部、エコモ財団

http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/220908_seminar.pdf

●団体専用列車「楽」で行く！名張車庫車窓見学ツアー

日時:2022年9月23日(金)

場所:大阪上本町駅

主催:近畿日本鉄道(株)

https://www.kintetsu.co.jp/kanko/kanko_info/news_info/raku_nabarisyako_tour_220805-0826.pdf

●空(そら)体験イベントシリーズ

日時:2022年10月22日(土)~10月30日(日)

場所:空宙博1階オリエンテーションルーム、空宙博1階シアタールーム

主催:ANA あきんど(株)

<https://www.anahd.co.jp/group/pr/202207/20220715.html>

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://mm-education.jp/magazine.html>

- グリーンスローモビリティに関する情報を掲載しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/gsm_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp(担当:中道)

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>